

助産師の出向に関する調査

【目 的】

助産師出向に関しては、厚生労働省の平成 25・26 年度の看護職員確保対策特別事業「助産師出向モデル事業」を経て、平成 27 年度に「助産師出向支援導入事業」が開始されました。その方針に伴い、ここ最近、『助産師の出向システム』を検討・実施している自治体の活動が報告されるようになりました。

『助産師の出向システム』とは、所属施設を超えて助産師を派遣し、受け入れ施設で助産業務を行うシステムです。このような活動が行われるようになった背景には、助産師の就業先の偏在が大きな理由として挙げられます。

岩手県に目を向けると、分娩施設の集約が整備されておりますが、就業施設の役割によってローリスク妊産褥婦への助産ケア・分娩介助、ハイリスク妊産褥婦への助産ケアと助産師が培っている実践能力に偏在があることは全国の傾向と同様です。

そこで、当看護協会助産師職能委員会では、県内各施設の助産師の出向システム並びに県内の助産師の出向についてのニーズ把握を目的に調査を行いました。

平成 27 年 12 月 実施・回収、平成 28 年度集計・分析。

【集計結果】

総合病院：配布 11 回収 施設長 6 (54.5%) 看護管理者 9 (81.8%)

		施設長 n = 6	看護管理者 n = 9
出向希望	有	4	6
	無	2	3
出向受入	有	4	7
	無	2	2

診療所：配布 21 回収 施設長 11 (52.4%) 看護管理者 9 (42.9%)

		施設長 n = 11	看護管理者 n = 9
出向希望	有	1	2
	無	9	6
	無回答	1	1
出向受入	有	1	0
	無	9	9
	無回答	1	0

助産師個人：配布 318 回収 204 (64.2%) 診療所 55/24 (43.6%) 総合病院 263/181 (68.8%)

	診療所 配布 55 回収 24 (43.6%)	総合病院 配布 263 回収 181 (68.8%)
自分が出向する	1 (4.2)	23 (12.7)
助産師の出向を受け入れる	5 (20.8)	22 (12.2)
出向も受入れも希望する	2 (8.3)	46 (25.4)
出向も受入れも希望しない	16 (66.7)	90 (49.7)

<総合病院>

1. 総合病院 11 施設中、9 施設から返信があった。
2. ハイリスク分娩が多く、助産師も充足している 2 施設は、出向および受入の希望はなかった。
3. 総合病院 6 施設は、出向および受入を希望しており、すでに分娩施設の集約化の影響で、岩手県医療局が県立病院間で研修目的の出向を実施している。
4. 受入のみ希望の 1 施設は、分娩介助ができない助産師がおり、技術習得が目的である。
5. 出向の理由として、ローリスク分娩を取り扱っている施設では、ハイリスク妊産婦のケア技術の習得、ハイリスク分娩を取り扱っている施設では、助産学生の実習受入れによる分娩介助経験を増やす目的が挙げられている。受入の理由は、ローリスク分娩・ハイリスク分娩を取り扱っている施設に関係なく、助産師数が少ないという理由が挙げられた。
6. 院内助産を実施している 2 施設では、院内助産での助産活動を希望し、他施設での状況を知り学んでほしい理由で出向を希望している。
7. 出向させたい助産師の経験年数は、4 施設が 3～6 年、1 施設だけは、11～19 年のベテランを希望している。受け入れたい助産師の経験年数も、同様の傾向にあり出向と受入で部署の助産師に偏りが出ないように考えている様子が伺える。

<診療所>

1. 診療所 21 施設中、11 施設から返信があった。
2. 返信のあった 11 施設のうち 9 施設は出向および受入の希望はなかった。
3. 出向受入を希望した 1 施設は、助産師歴 5～6 年目の中堅助産師を希望している。
4. 出向の希望は 2 施設、理由は分娩件数が少なく、ハイリスク妊産婦のケア技術の習得を目的とし、出向期間は 1 ヶ月間である。
5. 課題は、診療所の助産師 1 名が出向した期間中のマンパワー不足解消の方法である。出向させたい助産師の経験年数が 3～4 年目であったことから、将来の診療所助産師として継続して勤務するためにはハイリスク妊産婦へのケアの機会を持つことが重要視されていると考える。

<助産師個人>

1. 総合病院 263 名中 181 名から返信があった。
 - 1) 出向希望者は、6 施設 23 名で助産師就業者数の多い 2 施設、次いで、院内助産の 3 施設の順であった。その理由として、他施設での分娩介助等を経験し、多様なスキルを習得するため、助産師数が減少し、自施設でのマンパワー確保のためであった。
 - 2) 受入れのみ希望者は、7 施設 22 名で、助産師就業者数の少ない施設が一番多かった。その理由として、助産師のスキルとモチベーションのアップにつながるためであった。
 - 3) 出向および受入れの希望者は、全施設 46 名
 - 4) どちらも希望しない助産師は、全施設 90 名で 4 施設に多かった。
2. 診療所の助産師 55 名中 24 名から返信があった。
 - 1) 出向希望者は、1 施設 1 名
 - 2) 受入れのみ希望者は、4 施設 5 名
 - 3) 出向および受入れの希望者は、2 施設 2 名
 - 4) どちらも希望しない助産師は、6 施設 16 名であった。
3. 自由記載
 - ・ CLoCMiP と自施設独自のクリニカルラダーの統合を図る必要がある。
 - ・ 待遇と住居等について不安である。
 - ・ 各助産師と施設間の人事交流も必要である。
 - ・ 出向期間や出向中の勤務形態と業務内容、医療事故への補償、助産師学生の実習を考慮しなければならない事が課題であった。